

「MPS GPA」を取得して

フラワーオークションジャパン 取締役 物流本部副本部長
長 岡 求

◆MPS-GPA取得

弊社は平成20年の春にGPA(Good Practice for Auction)というMPSの認証を取得しました。そして、以下のロゴの使用権を取得することになりました。



MPS認証には生産者向けのMPS-Florimark Productionと小売店や流通業者、加工業者向けのMPS-Florimark Tradeがあり、最近になって卸売市場の卸売業者向けのMPS-Florimark Auctionという新たな認証が追加されています。各カテゴリーには、下図のように、いくつかの認証プログラムがあり、各カテゴリーにあるすべての認証を獲得するとMPS-Florimark ProductionやMPS-Florimark Auction、MPS-Florimark Tradeの認証が与えられます。なお、運送事業者向けの認証なども研

究されていると聞いています。

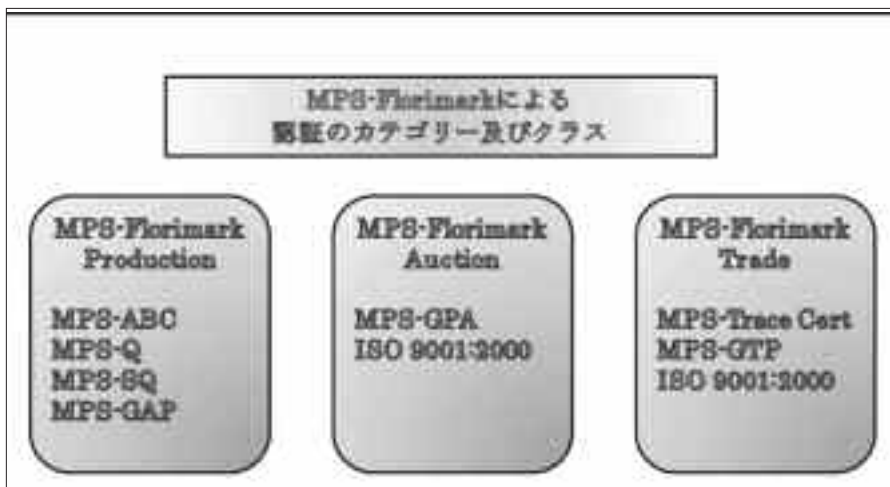
◆MPS-Florimarkの歴史

詳細については後に整理しますが、その前に、この認証制度の歴史について私が知るところを簡単に紹介しましょう。

MPS-FlorimarkはもともとMPS認証とFlorimark認証の2つの認証が合併して生まれています。どちらもオランダの花き業界で生まれ、前者は生産者を対象として、後者は小売業者等を対象としたものでした。オランダはいち早く環境問題に取り組み、国民の関心も高い国ですが、1990年台初頭のこと、環境関係のNPOがオランダの花き業界に対してアンチキャンペーンを張りました。

1980年代、欧州では酸性雨や水質汚染が問題になり、1991年に欧州連合(EU)は硝酸指令(農業起源の硝酸による汚染からの推計の保護に関する閣僚理事会指令)を公布しています。この指令は、地下水と表層水(河川や湖沼の水)の水質をモニタリングし、一定数値以上の硝酸を含む表層水等が集まる地域を脆弱地帯として指定し、指定地と指定地以外で各々改善のための行動計画を示すよう、EU参加加盟国に指示するものです。地下水等の窒素汚染は、工業廃水や生活排水、農

地への施肥や家畜の糞尿の野外放置が原因と言われ、当時、工業廃水や生活排水への対策はかなり進んだ結果、農業起源の窒素汚染の実態が浮き彫りになっていました。それも、牧畜が盛んなデンマークやオランダなどの窒素汚染が深刻な状況でした。また施設



園芸も露天の農業に比べて施肥量が多く、施肥された肥料分の大半は地中や河川に排出され、重大な汚染源であることが判明していました。これが花き業界へのアンチキャンペーンを生んだのです。生活水を汚染する花き産業という具合に、です。

いっぽう、オランダの花き生産はケニアなど、海外に進出する流れが進んでいました。そのケニアでは、オランダで使用が禁止されているものを含めて、各種の農薬が大量に使われていたのです。これに対して、「オランダは環境破壊を輸出している」といったキャンペーンも張られました。

これらのキャンペーンに対して、導入されたのがMPS認証でした。それは、ウエストランド市場が始めた仕組みで、MPS認証プログラムに参加する生産者は窒素およびリン酸の施用量、農薬の種類と使用量などを日々記録し、その記録をウエストランド市場に報告することを義務付けました。そして、市場は項目ごとに基準値を定め、実績に応じてポイントを与え、総合ポイントによりA、B、Cのランクを認定しました。例えば、バラの切り花生産では、窒素の施用実績をもとに基準値を最小500kg/ha・yearから最大2,000kg/ha・yearのように定め、最小値以下を満点にして、それ以上は施用量に応じたポイントを与えます。また、この基準値は公表され、基準値が生産者の改善目標になることで全体の使用量が減少に向かうというものです。

MPS認証は農薬や肥料の使用量を確実に減らしてゆきましたが、あるスーパーがMPS認証の花を積極的に販売し、やがてMPS認証以外の花は販売しないことを宣言したことで普及に勢いがつきました。MPSを推進してきた組織はウエストランド市場から財団として独立し、欧州ばかりか、欧州に花を輸出する国々の生産者がこのプログラムに参加するようになりました。

MPS認証が普及する欧州にあり、オランダ花き業界の流通・小売業者も独自の認証システムを生みだしました。それがFlorimark認証で、その中身はISO9001を意識したものでした。そして、MPSとFlorimarkは2004年に合併し、MPS-Florimarkとして再出発することになります。

いっぽう、食品業界では、O157が1982年に米国で発見され、1986年にはBSE問題が持ち上がり、食の安全に対する意識が急速に高まります。そこで再評価されてきたのがハセップ(HACCP)と呼ばれる管理手法です。Hazard Analysis(食品の生産、出荷までの工程の中で、

各々の工程における事故の発生を予測)とCritical Control Point(危険を回避するのに、どの時点で何をどのようにチェックすればよいかを定め、マニュアル化することで不測の事故を未然に防ぐ)を組み合わせた工程管理の手法で、もともとは1960年代のアポロ計画の実行にあたり、宇宙食を生産するために考案されたものです。食の安全に不安が持たれる時代になって、その手法が再評価され、1992年にはEUREP(ユーレップ)(Euro-Retailer Produce Working Group:欧州小売業者農産物作業グループ)がHACCPをベースにした優良農業規範(GAP:Good Agricultural Practice)を策定しました。これをEUREPGAP(ユーレップギャップ)と呼びます。

EUREPGAPは世界各国に普及し、2007年9月よりGlobal GAPと名前を改めています。以上のように、EUREPGAPは食品の衛生を確保するための管理手法ですが、花き類の生産、流通をもカバーするようになり、MPS-FlorimarkはGlobal GAPの花きに関するベンチとして認証されるようになりました。

なお、日本におけるMPS-Florimarkは、MPSフローラルマーケティング株式会社がその窓口を担当しています。業務内容は認証の授与やロゴなどの管理となっています。そして、検査業務はECAS(Europese Certificatie-instelling voor de Agrarische Sector:農業関連ヨーロッパ認定機関)が担当しています。ECASはオランダに本部があり、ISOなどの検査も行う機関で、本部で研修を受けた日本人スタッフが日本での検査を担当しています(なお、この10月にMPS-FlorimarkとECASは合併した)。

◆マネジメントシステム規格

HACCPの仕組みはISOやGAP、などの認証制度に引き継がれています。いずれも、業務分析を行い、どこにどのようなリスクがあるか洗い出し、そのリスクを避けるために何が必要で、必要なことをキチンと行っているかをチェックするためのポイントを定めます。あとは、定められたポイントで定められたチェックを行うことで全体を管理できますし、第三者がチェックを行うことでその精度は更に高くなります。

現在、この手法は様々な場面に利用されています。平成19年に生まれた金融商品取引法(J-SOX法)では株式を公開する企業に内部統制報告書の公開を義務付けていますが、内部統制は目標管理に加えてリスク管

理を重視しており、リスク管理の実効性を高めるためにこの手法が利用されています。

また、これらの認証ではPDCAサイクルの手法を導入していることでも共通しています。PDCAはPlan / Do / Check / Actionの頭文字をとったもので、行動計画を策定して実行し、途中で計画の進行状況や実行による成果等を分析し、改善点を見いだして行動に移すことを、毎年、繰り返して行うことで、改善を進めるという手法です。MPS-FlorimarkもPDCAサイクルの手法を取り入れており、毎年1回の検査を行い、PDCAサイクルが機能しているかどうか重要なチェックポイントになるはずですが(認証取得後に検査はまだ行われていない)。

◆MPS-Florimarkの内容

MPS-Florimarkは前記のように、生産者向けと市場向け、流通業者向けの3種類があり、それぞれに幾つかのクラスがあります。生産者向けのMPS-Florimark Productionでは4種類あり、当初のMPSが始めたプログラムはMPS-ABCとして継続されています。そして、MPS-ABCを除くすべての認証がマネジメントシステム規格の仕組みを採用しています。

まず、MPS Productionの4種類はMPS-ABCとMPS-Q、MPS-SQ、MPS-GAPです。MPS-ABCは環境に関するプログラムであり、プログラムに参加した生産者は窒素とリン酸の施用量、エネルギーの消費量を報告する義務があり、検査では肥料や農薬の管理、廃プラスチックの処理、水の消費や排水の処理方法などもチェックポイントになっています。MPS-Qは品質管理に関するプログラムです。採花後の処理や温度管理などの規範があります。MPS-SQは社会規範に関するプログラムで、労働衛生の確保など、法令遵守に重点を置いたものです。最後のMPS-GAPはトレサビリティーの確保を目指すものです。

MPS Tradeは流通や小売向けのシステム認証です。MPS-Trace CertとMPS-GTPがあり、前者はトレサビリティーに関するもの、後者はトレサビリティーに品質管理や労働衛生などを加えた認証です。MPS-GTPでひとつ例を示しましょう。花屋さんにおける品質管理の向上を目標とした時、品質劣化に関係する作業や環境などを分析し、どの時点で何をチェックすればよいかを決めます。切り花でいえば、市場からお店まで搬送するトラック内の温度、店に着いてから冷蔵庫に入れるか、

水揚げするまでの時間、水揚げに使う水の温度や水質、殺菌剤の有無、水揚げの方法、店頭での温度管理の有無、等々が切花の品質を左右する要因です。これらのポイントに於ける理想的で、かつ実現可能な管理方法を規範として明文化し、その規範に従ってチェックを行うこととなります。

我々が取得したMPS-GPAはMPS Auctionのプログラムです。MPS TradeのMPS-GTPに相当するものです。市場の卸では在庫を持たないなど、他の流通業者と異なる部分が多いことにより、MPS-GPAが生まれましたが、その内容はMPS-GTPに相似しています。

MPS-GTPまたはMPS-GPAを取得した企業がISO9001:2000を追加取得すると、それぞれMPS-Florimark TradeまたはMPS-Florimark Auctionの認証を得ることとなります。

◆最後に

現在、MPS-Florimarkの認証プログラムに参加する企業・個人は150社を超えたといえます。市場関係では10数社が取得に向けて準備を始めたと聞きます。MPS-Florimarkへの参加者は順調に増えていますが、MPSフローラルマーケティング株式会社では、MPSに参加することは有利販売につながり、国産花きの保護にも貢献できると言って勧誘しています。しかし、それは間違いと考えます。『国産花きの保護に…』云々についていえば、まず、店頭に並ぶ花は8割以上が国産であるのに、Made in Japanがどれだけの価値を生むのか考えれば答えは明らかです。『有利販売につながる』云々についても、消費者がMPSを認識しない限り付加価値になりませんし、仮に周知が行き届いたとしても、MPSは絶対的な評価でなく、相対的な評価であるという構造があります。MPS-ABCのAランク取得は意味がありますが、Cランクはマイナス価値を生む可能性さえあり、いっぽうのシステム認証においてはほぼ現状で(ほとんど改善することなく)、ひとまずMPS認証は取得できます。

弊社においても、MPS-GPAを取得することが目的でなく、自ら業務改善を行うにあたり、そのきっかけになればという目的から取得に向かいました。

以上のように、まだ多くの問題がありますが、MPS-Florimarkの利用価値は高いと考えており、日本に定着することを願っています。